

平成28年度 学校自己評価システムシート

(埼玉県立熊谷女子高等学校)

目指す学校像	1 自主自律の精神と豊かな人格を有し、次世代の社会をリードする心身ともに健康な生徒を育成する。 2 地域に信頼される進学校として、生徒の第一志望の進路を実現させる。
重点目標	1 豊かな人間性と社会性を育む教育を展開し、高い志を持った次代を担う女性を育成する。 2 SSHや骨太リーダー育成事業などの取組を活かし、質の高い授業を行い、学力を向上させる。 3 きめ細かな進路指導や学習指導に取り組み、生徒一人一人の第一志望の進路を実現させる。 4 伝統ある本校の生徒としてふさわしい生活習慣を身に付けた、自らを律し行動できる生徒を育成することにより、地域に信頼される学校づくりを行う。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割以下)

出席者
学校関係者 7名
生徒 3名

学校自己評価					平成28年度評価 (2月9日現在)	
平成28年度目標					達成状況	
番号	現状と課題	評価項目	具体的な方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	◇部活動や委員会・生徒会活動、学校行事に積極的に取り組む生徒が多い。部活動では昨年度、運動部・文化部ともに大きな成果をあげている。その他、地域の施設や学校を訪問して奉仕活動を行ったり、国際性育成のため、ニュージーランド姉妹校と交流を行ったりしている。教育活動全般を通じて、高い志や使命感を育成し、次世代をリードする生徒を育成する必要がある。	次世代をリードする生徒の育成	①地域の高齢者施設や小学校、中学校等で福祉活動や児童・生徒支援等を行う。 ②派遣と受入によりニュージーランド姉妹校との交流を推進し、また、ハーバードMIT派遣に生徒を参加させるなどして、国際性育成の一助とする。	①生徒が昨年度と同数程度以上、地域の施設や学校等を訪問できたか。また、新たな学校等と連携できたか。 ②生徒の変容がみられたか。ハーバードMIT派遣生徒数が昨年度より増加したか。	①新規に2年19名が富士見中生徒へ学習支援を2日間実施。ラクロス部・水泳部員延べ130名(H27:150H26:120)の生徒が熊谷東小児童へ学習・クラブ活動支援を5日間実施。2年165名が保育・福祉等27施設においてボランティア活動を実施。社会貢献の意義を学ぶ機会を得た。(7~8月) ②体験報告等により、参加生徒の価値観の変容や語学力向上への意欲がみられた。 ③ハーバードMIT派遣に3名(H27:1,H26:4)の生徒が参加、体験を全校生徒へ報告。	A
2	◇SSH4年目の昨年度は、全国発表会でポスター発表賞を受賞するなどの成果を得た。今年度は5年目となり、第1期SSHの総括と第2期の申請を行う。高倍率が予想される中、カリキュラムの改善等を行い第2期の認可を得ることが課題である。また、SSHや骨太リーダー育成事業、学校間ネットワーク等を活用して、生徒の思考力・判断力・表現力等を向上させる取組の研究を進める必要がある。	SSHを活用した学校組織力の向上 思考力・判断力・表現力等を高める授業力の向上	①第1期SSHの総括を行う。 ②カリキュラムの改善等を行うとともに、第2期SSHの理念や目標を明確にしたうえで申請を行う。	①アンケート等の結果から、生徒がどのように変容したか。どのような成果が得られたか。 ②カリキュラムの改善等が図られたか。第2期SSHの認可を得ることができたか。	①アンケート経年変化の結果等から、第1期の取組で科学や観察・実験の興味を高めると共に、思考力や表現力の育成にも一定の成果を得たと捉えている。 ②平成29年度入学生より、新規科目を開講し全生徒が探究活動を行う教育課程を編成。第2期採択の可否は3月下旬に発表。	B
3	◇様々な進路行事や生徒面談などとおして、女子校のニーズに合わせたきめ細かい進路指導を行っている。昨年度は一昨年度と比べて、センター試験5教科の平均点アップや国立大学合格者数の増加などの成果を得た。一方で、評議員・懇話会委員等からはさらなる進学実績の向上が望まれている。生徒一人一人の第一志望の進路を実現するため、組織的・効果的に取り組む必要がある。	進学実績の向上	①進路指導の研究や取組を分掌、学年、委員会等で行い、生徒の第一志望の進路実現を目指し、進学実績を向上させる。 ②進路データ、適性等を踏まえたきめ細かい指導や補習を実施し、センター試験の平均点を向上させる。	①進路指導目標の実現に向け十分な研究や取組ができたか。 ①合格実績目標値(現役) 国公立大学60名・早慶上理ICU30名・G-MARCH100名以上 ②2016センター試験結果と比べ向上したか。	①新規に6月に進路指導部による校内研修会を行い、全職員の共通理解を図った。 ①模試分析会において、進路部が加えた分析を学年、教科と共有し、指導方針の共通理解を図った。 ①現役大学合格者数、国公立55名・早慶上理ICU7名・G-MARCH95名(3/30現在) ②組織的な補習や担任等によるきめ細かい面談を実施。 ②センター試験5教科平均(900点満点)は、昨年に比べ文系7点、理系21点アップ(全国平均は昨年に比べ文系+7点、理系-3点)。	A
4	◇伝統ある熊女の生徒としての品格を身に付け、自らを律した行動ができるように生徒指導を行っている。全教職員の共通理解のもと、生活指導や心のケア等の対応を充実させる必要がある。 ◇塾や中学校に出向いて行う学校説明会・相談会が例年40回程度ある。内容を精選して熊女の魅力を発信するとともに、入学者選抜の倍率に反映されるように効果的な広報活動を行う。	全教職員協力による生徒指導、心のケア等の充実 効果的な広報活動の実践	①全教職員による挨拶・身だしなみ・登校・完全下校指導を行う。 ②関係機関と連携を行うとともに、校内支援委員会を定期的実施し、生徒情報の共有と適切な指導を行う。	①全教職員による組織的な生活指導に取り組めたか。 ②個々の生徒に対し教職員の共通理解が図られ、様々な生徒の対応に取り組めたか。	①昨年引き続き、登校時の挨拶・身だしなみ指導を42日間教員延べ220名、生徒延べ230名、保護者延べ20名が協力して実施(4~1月)。 ②支援委員会を行い、生徒支援策を検討。スクールカウンセラーとも連携。教職員の共通理解を図り個々の生徒へ対応した。	A
			①校内・校外で実施する学校説明会・相談会の内容を精選し、効果的な広報活動を行う。 ②学校ホームページの更新を行い、最新の情報を発信する。	①学校説明会で工夫が図られたか。また、入学者選抜の倍率が昨年度と同程度以上か。 ②学校ホームページアクセス数が昨年度と同程度か。	①新規に10月に中学校教員対象の説明会を実施。近隣中学16校から教員が参加。 ①学校説明会の資料を再編集し、より分かりやすく説明しやすいものに改善。 ②情報管理部によるHP操作研修会を実施(5月)。 ②ホームページアクセス数は約1900回/日(H27:2000, H26:1200) (4~1月)。	A

学校関係者評価	
実施日	平成29年2月17日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援は好評だった。教える側、教えられる側双方にメリットがあるのではないかと。 ・ハーバードMIT派遣やニュージーランド姉妹校との交流など、高校生の時に海外体験できることは素晴らしい。 ・ボランティア活動など、新聞社へも積極的に広報してほしい。 ・新1年生から1クラス減になるので、体育祭の団の組み方を配慮してほしい。 ・SSHは数多くの様々な取組を行っているため、評価はAでもよいのではないかと。→ 第2期SSHは不採択となり、平成29年度は経過措置となったため、評価Bとする。 ・見学した2つの授業の内容がよかった。生徒が主体的に考え、議論やポスター発表を行ったことがよかった。 ・ディスカッションやディベートなどを行い、考えさせる授業を行っていくことがこれからは求められるのではないかと。 ・授業力向上について、生徒の評価や研修内容もよいので、評価はAでもよいのではないかと。→ 評価BをAに変更する。 ・指標として、第一志望の大学等の合格実績を示す方法もあるのではないかと。 ・センター試験5教科平均(900点満点)について、理系は2年連続で上がっている。よくやっている。 ・合格実績については、目標値が高い。他の部分については、よくやっているため評価はAでもよいのではないかと。→ 評価BをAに変更する。 ・来年度もPTAと協力しながら、取組を行ってほしい。 ・中学校教員対象の説明会を来年度も行ってほしい。 ・(番号1で記載されている)学習支援やボランティア活動も広報活動に大きく貢献している。 	